

本校の熱中症予防のための対応について

盛夏の候、保護者の皆様におかれましては、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。また日頃から、本校教育活動に御理解と御協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、近年、全国的に児童生徒の熱中症に係る救急搬送が増加しており、旭川市でも、今後暑い日が予想されることから、対策が必要な状況になっております。

つきましては、「旭川市立小中学校熱中症対策ガイドライン」に基づき、気象庁の天気情報や環境省の「熱中症予防情報サイト」の暑さ指数(WBGT)を踏まえ、次のとおり対応してまいります。御理解と御協力をいただきますようよろしくお願いいたします。

記

1 熱中症警戒アラート（暑さ指数3.3以上）が発表された場合

○臨時休業（時間の変更を含む）を検討し、マチコミメール等で保護者に周知します。

2 暑さ指数が高い場合

○熱中症を予防するため、暑さ指数を基に下の表の通り活動の判断をします。また、暑さ指数が低い場合でも、気温や児童の体調を考慮し、対応を判断します。

暑さ指数 (WBGT)	湿球温度 (注1)	乾球温度 (注1)	注意すべき生活活動の目安 (注2)	日常生活における注意事項 (注2)	熱中症予防運動指針(注1)	本校の対応
3.3以上	27℃以上	35℃以上	すべての生活活動でおこる危険性	高齢者においては安静状態でも発生する危険性が大きい。外出はなるべく避け、涼しい室内に移動する。	危険（運動は原則中止） 特別の場合以外は運動を中止する。特に子どもの場合には中止すべき。	屋内外で身体を動かす活動の中止。
2.8以上	24℃以上	31℃以上		外出時は炎天下を避け、室内では室温の上昇に注意する。	嚴重警戒（激しい運動は中止） 熱中症の危険性が高いので、激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動は避ける。10～20分おきに休憩を取り水分・塩分の補給を行う。暑さに弱い人※は運動を軽減または中止。	体温が上昇する運動を中止するなど、活動を制限。
2.5以上	21℃以上	28℃以上	中等度以上の生活活動でおこる危険性	運動や激しい作業をする際は定期的に十分に休憩を取り入れる。	警戒（積極的に休憩） 熱中症の危険性が増すので、積極的に休憩を取り適宜、水分・塩分を補給する。激しい運動では、30分おきくらいに休憩を取る。	状況把握に努め適宜必要な指示。
2.1以上	18℃以上	24℃以上	強い生活活動でおこる危険性	一般には危険性は少ないが、激しい運動や重労働時には発生する危険性がある。	注意（積極的に水分補給） 熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。熱中症の兆候に注意するとともに、運動の合間に積極的に水分・塩分を補給する。	
2.1未満	18℃未満	24℃未満		※暑さに弱い人：体力の低い人、肥満の人や暑さに慣れていない人など	ほぼ安全（適宜水分補給） 通常は熱中症の危険は小さいが、適宜水分・塩分の補給は必要である。市民マラソンなどではこの条件でも熱中症が発生するので注意。	

※暑さ指数については、「熱中症予防情報サイト」の数値の他、本校でも暑さ指数計を用いて測定しています。